

川東の里だより

2018.1 No.100

発行責任者
理事長 松尾 東 司

発行所
社会福祉法人 川東の里
北見市川東226番地2/TEL (0157) 24-3030

・きたみ学園・きたみ学園成人部
・川東学園・友楽里
・風楽里・フレンズ
・豆ちゃん・むぎわら
・緋牛内事業所・あさひ45
・やまぶき寮・ほっと
・あおぞら

印刷所
(有)サンケイプリント社

社会福祉法人 川東の里 川東学園開設40周年 記念祝賀会



川東学園開設四十周年記念 祝賀会&忘年会

平成二十九年十二月五日 ホテル黒部にて、川東学園開設四十周年記念祝賀会を開催いたしました。当日は一〇〇名を超えるご参加をいただき、盛大な祝賀会となりました。松尾理事長の開催のあいさつにはじまり、ご来賓の皆様よりあたたかな言葉をいただきました。乾杯のあいさつは利用者の会せせらぎの会会長 国分敏夫さんより、少し緊張した様子でしたが大きな声で乾杯の発声をいたしました。祝賀では美味しい料理を食べ、皆さんが楽しみにしていた『カラオケ大会』二十曲、二十四名が壇上にはがり元気な歌声を披露し、皆さん、とても楽しいひと時を過ごす事ができました。川東学園四十年のあゆみを振り返り、この施設を作り上げてきた先人の皆様たちの努力に感謝し、次は五十周年の記念式典を目指して、利用者・職員が丸となって良い施設にしていきたいです。



年頭にあたって

社会福祉法人 川東の里

理事長 松尾東司

新年明けましておめでとございます。皆様には、平成三十年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

また、昨年中は当法人の事業推進に当たりまして、関係機関をはじめ各事業所や多くの市民の皆様方より温かなご理解とご支援をいただき、心から感謝とお礼を申し上げます。

改正社会福祉法が昨年四月に施行され、その趣旨に添って当法人におきましても、理事会や評議員会の機能を二層高める中でガバナンスの強化を図るとともに、適正かつ公正な財務管理のもと経営の透明性の確保に務めるなど、時代の要請に応える経営基盤の強化に努めてきたところでございます。

この間、七月には第一回の「全道障がい者就業・生活センター職員研修」が、情報の交流と職員の支援スキルアップを目的に、オホーツク地域センターである当法人の事業所『あおぞら』が主管して開催されました。

また、九月の「川東の里生産フェア」の折には、管内の全ての「知的障がい者福祉法人」が一堂に集まり、生産物の販売活動を通して地域交流を深める『虹色フェスタ』が北見で初めて開催されるなど、関係者の連携

強化が図られた一年でもありました。今年度は、きたみ学園が開設されて五十年、川東学園も四十年の節目の年を迎えております。

去る十二月には、川東学園開設四十周年を記念して、利用者の方々と法人や父母会の役員が集い、祝賀会が開催されたところです。

来る三月には、きたみ学園の祝賀会も予定されており、改めて「川東の里」のルーツとそのあゆみを確かめつつ、明日への新たな出発点としたいと考えております。

現在、国では来年度以降の障害福祉の「報酬改定」等の論議が進む中、当法人におきましても、計画的な施設整備をはじめ、利用者の高齢化対策や法人を支える人材の確保・育成など、様々な課題への対応が求められております。

今後とも、法人役員をはじめ職員が一体となつて、地域における「川東の里」の社会的役割や多様なニーズを再確認し、利用者の皆さま方が元気に働き、楽しく安全に生活できる福祉施設の運営に一層務め、提供させていただく福祉サービスの質の向上を目指して参りたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

役員執行体制

(平成29年7月現在)

| | |
|-------|-------|
| 理事長 | 松尾東司 |
| 副理事長 | 水口馨 |
| 常務理事 | 島田英夫 |
| 理事 | 村本慧乃 |
| | 小池唯夫 |
| | 皆川和雄 |
| 監事 | 小山穂積 |
| | 栗田博行 |
| 評議員会長 | 相場雄幸 |
| 評議員 | 竹ヶ原洋子 |
| | 杉山茂樹 |
| | 引地勝三 |
| | 伊藤俊文 |
| | 神田薫 |
| | 中川勝彦 |
| 第三者委員 | |
| 委員長 | 大橋美恵 |
| 委員 | 白石伸通 |
| 菅 | 久男 |

川東の里職員体制

施設長・管理者

島田英夫
参事 皆川和雄
総務課長 (事務取扱)

きたみ学園支援課

課長 藤嗣巳

川東学園支援課

課長 橋爪美和子

友楽里・風楽里支援課

課長 橋本厚子

フレンズ・豆ちゃん支援課

課長 菅野理恵

むぎわら・緋牛内事業所支援課

課長 上坂和人

地域生活支援センターあさひ45

所長 柴山小百合

グループホーム支援課

課長 串崎 聡

総合相談支援センター

所長 天羽 仁

きたみ学園創設五十周年を迎えて

きたみ学園支援課長 工藤 嗣 巳

平成二十九年八月を持ちましてきたみ学園創設五十周年を迎える事が出来ました。昭和四十二年八月に定員四十名から始まった「きたみ学園」も時代の移り変わりやニーズの変化により現在では児童定員七名、成人五十三名の六十名の施設となりました。(きたみ二十三名、成人部三十名)

施設開所当時は利用者も重度で朝起きると天井に便がついており、その掃除から支援が始まったとお聞きしております。洗濯機のない時代には施設横を流れるシユブシユブナイ川でおしめを洗濯し、終了してから退勤したとも聞いております。先人達の努力なしでは今の施設は存在しなかったといっても過言ではありません。児童から始まった施設には児童憲章が掲示されており、「児童は人として尊ばれる」「児童は社会の一員として重ぜられる」「児童は良い環境の中で育てられる」の三本柱が今でも印象残っております。障害を持つ児童は就学免除という時代があり、教育を受けることもままならな

い時代がありました。が時代と共にどんな障害を持つ子供にも教育を受ける権利があり就学が可能となります。施設が出来、施設内に学校分校が出来る事で就学できるようになり、その後各学校内にも特殊学級や情緒学級ができて施設から学校へという社会参加への道順が出来ました。就学前の児童には親子教室など、親と子がこれから生きていく術を共に学ぶ地域福祉も早くから行ってきました。諸機関の整備によりその機能は移譲され現在は北見市が中心となりその役割を担っております。

子供は成長し、当然成人となります。昭和五十二年にはきたみ学園で成人を迎えた方を受け入れる為成人施設の「川東学園」が創設、今年で四十年を迎えました。重度高齢化をどう対応するか、きたみ学園とはまた違った問題を抱えております。

地域に在住する障害を持つ児童や成人の方はまだまだ沢山おり、施設入所の役割は終えることはないと思います。今後につきましてもニーズのある限り

利用者支援に全力を尽くす所存です。五十周年という節目を迎えましたが、これからの福祉ニーズにどう答え、どう実践していくのか、先人の努力で残してくださった施設をどう機能させていくかが大きな課題です。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。



「川東学園四十周年」を迎えて

川東学園支援課長 橋爪 美和子

昭和五十二年四月に更生施設「川東学園」が開設され、今年で四十年を迎えました。

四十年の月日の中で、多くの方々が施設から羽ばたき社会へ自立していきましました。旧施設では四人部屋で生活し、プライバシーも保たれず、福祉のニーズにこたえる事が出来ない状態でしたが、利用者の皆さん、父母の皆さんの熱き思いにより、平成十五年に現在の場所に完全個室でプライバシーが保たれ、バリアフリーで清潔な新施設が完成しました。

新施設完成には理事長を初めとし、北見市民の暖かい理解や大勢の方々の熱意が存在します。また父母の皆様が資金造成の為にビルパーティーを行ってくださったたり、廃品回収を行い資金を作って下さいました。完成した新施設を利用者の方々と共に迷いながら見て回ったのが昨日の事のように思いません。

早いもので、新施設が完成し間もなく十五年、利用者の方も、私も随分歳

を取りました。

四十周年を迎えまた新たな気持ちで利用者の方が事故なく、楽しく生活して頂けるよう、忙しいを理由にせず利用者の方の話に耳を傾ける事を怠らず、一日一日頑張りたいと思います。



寮が変わりました

グループホーム支援課長 申崎 聡

当法人で運営する十七寮の内、築年数が比較的古い物件から順次、安心・安全・快適な物件に住み替える計画が進んでいます。

この度、その初弾でまず二寮が左記に移転しましたので、便り紙面をお借りし、お知らせします。

☆さかえ寮

住所：北見市朝日町四八番地一九四

☆うららか荘

住所：北見市川東三四〇番地五

厳寒期突入の当地ですが、築浅やりフォアム済の家は流石に暖かく、設備も新しく、快適なもの！引越初日より利用者の満足な笑顔と声が溢れてました。今後も一歩ずつ、着実に各寮の住環境向上に努めたいと思います。



生産フェアを終えて

地域生活支援センター係長 澤 田 剛

去る九月二十四日(日)あさひ45にて開催いたしました「川東の里生産フェア」では、たくさんの方々にご参加、ご協力いただきありがとうございました。

今年、初めての試みで「川東の里生産フェア」と「網走管内知的障がい福祉協会主催 虹色フェスティバル」が合同開催となりました。天候にも恵まれ、秋晴れの中、オープニングは和太鼓の演奏で始まり大いに盛り上がる事ができました。

今回は川東の里生産物販売の他に、管内から各施設の生産物販売も行われ、野菜やパンの他に陶器などの製品もあり、賑わいをみせていました。また、あさひ45の一階ホール内では展示コーナーも設置され、日頃から取り組んでいる各施設の利用者さんが描いた絵や作品がたくさん展示されて華やかになり、たくさんのお客様にみていただきました。

イベントでは、恒例の豚レース、ゲームコーナー、もちまきに加えて

各施設から和太鼓の演奏、合唱、よさこいソーランと舞台発表もあり日頃の成果を発揮して会場は大いに盛り上がっていました。

バザーでは、川東の里で採れた野菜、肉を使った豚汁やフランク等も提供し、お客様から「美味しい」とのお声もいただくことが出来ました。

地域の方々にも川東の里をはじめ、管内の施設の活動や障がいということについて少しでもご理解していただけたと思いますので、このような機会を提供できるよう今後とも協力をお願い致します。

最後に、改めてお忙しい中、お手伝いいただいた工大生の皆様、父母会の皆様、川東の里各事業所職員・利用者の皆様ありがとうございました。今回の生産フェアも皆様のご協力のおかげで事故等もなく無事に終えることが出来ました。

紙面を借りまして御礼申し上げます。



合理的配慮に関する研修会を終えて

虐待防止ワーキンググループ 前 多 智 哉

十一月二日に虐待防止委員会主催による合理的配慮に関する研修会が開催されました。今回は、基調講演に加え、参加者間で意見交換や情報共有を図ることを目的としたグループワークを実施しました。

講師は、特定非営利活動法人ノーマライゼーションサポーターセンターこころりんく東川副理事長の大友愛美氏に講師を依頼しました。大友氏は全国各地で支援員の育成に関わる研修会で講師を務めており、且つ、発達障がいについて多くの知識と深い理解をお持ちの方です。

講演の冒頭に大切なキーワードがありました。それが『福祉の仕事(専門性)は、社会モデルで考えること』です。社会モデルとは、障がいや社会や環境の側にあるものと考え、配慮を増やすことにより、ご本人の苦勞を減らす支援を実施することです。その配慮こそが『合理的配慮』と云われます。

私達支援員は専門職として、ご

本人に寄り添い、ご本人を取り巻く環境に存在する障壁を取り除く、または緩和する方法を見出すスキルの向上や感性を磨く努力が必要であることを再確認しました。

ご本人に寄り添う際の支援プロセスとして、アセスメントがあります。合理的配慮を実施するためには、アセスメントスキルを磨くことも重要です。そのためには、障がい特性に対する広い知識と深い理解、ご本人を取り巻く(巻き取ってきた)環境に関する客観的な把握と分析が必要となります。

これらのスキル向上のために、支援員個々が学習を重ねる必要があります。その機会を保障するひとつとして、今回のような研修会を継続して開催することの重要性を再認識しました。

今回の研修を機に利用者おひとりおひとりに適切な合理的配慮を提示できるような、各事業所での職員研修も活発に実施されることを期待します。

新職員紹介

- ① 所属先 ② 特技・趣味 ③ 好きな休日の過ごし方
- ④ 勤務して感じたこと、今後の抱負



福士 貴大

- ① きたみ学園 ② 釣り・ランチ巡り
- ③ 自宅でゲームや映画鑑賞をしている事が多いです。外食が好きなのでドライブがてらランチにも行ったりします。

④ 利用者さん一人ひとり個性があり、その方に合った支援が大切だと感じます。今後もその方に合った支援を行っていききたいと思います。



涌嶋 香奈

- ① きたみ学園 ② ドライブ
- ③ 映画鑑賞

④ まだまだ分からない事だらけで戸惑う事もありますが、笑顔で頑張っていきたいと思えます。これからもよろしくお願ひ致します。

日本体育大学附属高等支援学校に入学して

僕は今年から新設された日本体育大学附属高等支援学校の一期生になりました。寮の中では揉め事もありますが、お互いに謝って仲直りしています。わからない勉強もお互いが教え合い、みんなで助け合いながら生活しています。学校では、火・水曜日は部活動があり僕は卓球部に入部し八人の部員

きたみ学園 福本 一美

がいます。その中では僕が一番上手です。それは中学校から卓球をしていたので、教える力や試合に出れる力があるからです。将来の夢は卓球選手になる事です。そのためには、もっと練習をすることだと思っています。三年間、みんなの期待を裏切らず頑張っていきます。

就職しました



おお え はや と
大江 隼人
すが の のそみ
菅野 希望



(風楽里より平成29年1月に就職)

- 企業名 / 医療法人社団 久仁会
- 事業所名 / 小規模多機能・グループホームいきいき
- 業務内容 / 高齢者介護事業

- ・大江さん ~ 小規模多機能にて清掃、リネン交換、配膳・厨房業務に従事。
- ・菅野さん ~ グループホームにて清掃、リネン交換、洗濯物たたみ、食器洗浄等に従事。

【大江 隼人さんのコメント】 大変なことは、掃除が大変ですね。見残しがないように掃除をするのが大変です！でも、楽しいです。ずーと、働けたらいいなと思います。頑張ります！！

【菅野 希望さんのコメント】 最初は不安でいっぱいでした。流れを覚えるのに精一杯でしたが、周りのスタッフさんに優しく教えていただいたり、アドバイスをいただいたおかげで気持ちが少し楽になりました。外出の行事にも参加しています。これからも一生懸命頑張りたいと思います。後輩の皆さん、就職を目指して頑張ってください。

お好み旅行

むぎわら

川東学園



網走オホーツク流水館



札幌ドーム



サホロベアーマウンテンにて記念撮影

友楽里 エンジョイ班

若松ドライブ



夢のあるものは希望がある 行動のあるものは実践がある
 希望のあるものは目標がある 実践のあるものは反省がある
 目標のあるものは計画がある 反省のあるものは進歩がある
 計画のあるものは行動がある 進歩のあるものは夢がある

今年も皆んな
 元気で過ごしましょう

きたみ学園



皆様からの
たくさんのご厚情
ありがとうございました。

〈寄付金〉

北見信用金庫 南大通支店
支店長 菅原 直宏
イトーヨーカドー労働組合北見支部
支部代表委員長 吉田 光一
北海道理美容福祉訪問協会
様 様 様

〈寄贈品〉

北海道コカ・コーラボトリング
北見藤女子高等学校
北見トヨペット株式会社
代表取締役 國安 幹夫
社員代表 藤田 敏明
全日本司厨士協会
北海道地方本部 北見支部
支部長 天池 三郎
公益社団法人
「小さな親切運動」北見支部
支部長 山腰 睦子
北見市老人クラブ連合会北見支部
支部長 寺山 正吉
女性委員長 徳武 吉枝
北見友の会
代表 中道さかえ
北見ライオンズクラブ
本間内科医院様 (株)セコマ様
小田商店様 黒川 幸夫様
小池 唯夫様 田中 正広様
上野 宗幸様 松下 朗弘様
宮岸 基司様

むぎわらハウス野菜



むぎわら農耕班は、冬野菜を寒さに負けず利用者が一生懸命作っています。ハウスの中で冬野菜を作るのは今年で2シーズン目になり、北見の寒さに負けずハウス内で薪ストーブを使い温度を温かく保ち栽培出来るようになりました。薪ストーブの原料となる廃材も利用者に一生懸命ノコギリで切ってもらっています。皆様に新鮮な野菜を食べて頂きたく、今シーズンも冬野菜をじねんに納品しております。利用者と一緒に頑張っていきたいと思っていますので今後とも宜しくお願い致します。
むぎわら農耕班(小栗)

退職・採用職員紹介

〈採用〉

きたみ学園 支援員 涌嶋 香奈
きたみ学園 支援員 福士 貴大

〈退職〉

脇坂 美利・川田都志江

フレンズパン・新商品のご紹介



編集後記

皆様、新年あけましておめでとうございます。寒い日が続いておりますが、年末年始はいかがお過ごしになりましたでしょうか。

昨年はきたみ学園創立五十周年、川東学園創立四十周年の節目を迎える事ができました。このように節目を迎える事ができましたのも、皆様の暖かいご支援があったからこそと、あらためて感謝申し上げます。また、祝賀会ではたくさんの方々にお祝いいただき、誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

皆様のご支援を糧に更なる発展に邁進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願致します。

さて、二〇一八年は戌年です。「戌」と言う字には元々動物の犬ではなく、実は草木が減ぶと言う意味がありますが、これには次に進むための新しいステップという意味が込められています。なぜなら、翌年の「亥」に「草木の生命力が種の中に閉じ込められている」との意味、更に次の年の「子」には「この草木から芽が出る」という意味があるからで、これまでの問題点を見直して堅実な1年を過ごすという事です。

本年も皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

厳寒の折、風邪など召されませぬようご自愛ください。(小栗)

編集委員：後藤 美咲・松本 麻弥

今川 隆太・小栗 優二
鎌田 有里